

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6



はじめに



こんにちは。皆さん。ほくは、この絵本の案内人「マガタマ君」だよ。ずーっと昔に生まれたんだ。でも、年令や性別がはっきりしない不思議なキャラクターなんだ。どうぞよろしく。

那加地区には、1500年前から人が住んでいたんだって。あちこちに遺跡が発掘されて証明されているんだ。この各務原台地のすぐ近くまで海がせまっていたんだって。浜見町という町は皆さんも知っているね。そこから海が見えたから「浜見町」と名付けられたんだそう。あの戦争があって、このあたりもずいぶんこたえ果てたものだが、今ではその遺跡もほとんどなく、すっかり新しい近代的なところに変わってしまいました。でも注意深く見てみると、その名残をまだまだあちこちに見つけることができるんだ。興味深く楽しい地域なんだよ。

私たちのまわりには、今まで知らなかったことや気づかなかったことがたくさんあるんだネ。ちょっとむずかしいが「温故知新」という言葉を知ってるかい？「古きを訪ねて今を知る」と意味なんだ。

さあ！今すぐ野外へ飛び出そう。その場所へ行ってみよう。昔の人が現われて、おもしろい話をしてくれるはず。どれだけの人が、どのような歴史を積み重ねながら生きてきたかを、いたるところで感じることができるはずだよ！

身体全体で直接感じ取り、確かめることが大切なんだ。そこには素敵な感動と新たな発見が生まれてくるはずだよ。

僕は期待しているんだ。みんなの探求心がふくらみ、自然の美しさや郷土のすばらしさを見つけてくれることを。そして、どんなにもチャレンジする行動力や、わたしたちの郷土を心から愛する気持ちを、みなさんが持つてくれることを。

僕は、案内の達人だけど、「わかるかな？」とちょっぴり心配もしているんだ。僕よりもっといろいろなおもしろいことを知ってみえるおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんがいらっしゃると思うんだ。

そこで、お家のみなさんにもお願いがあります。家族でそろって話題をふくらませ、意義深いひとときをつくりだしてもらえれば、僕もひと安心。よろしくね。では、さっそくページを開いてみよう。

この絵本を読むにあたって

☆ この絵本「なかなかの話」は内容が1～15まであります。各務原台地の起こりから、那加地区の歴史的に興味深い身近なことから、そして戦後飛躍的に発展した躍動する各務原市へと関心が深められるように構成されています。順番どおり読んでもいくと各務原市の流れがつかみやすくなります。

★ まず3～4ページに、「那加地区室地図」がついています。その地図をじーっとよく見ると不思議な発見があります。むくむくと興味や冒険心が湧いてきます。そうしたらしためたものです。まずこの絵本を持ってその場所へ出かけてみてください。歴史の匂いがプンプン感じられることでしょう。そのとき、気づいたこと、感じたこと、新しい疑問などをどんどんこの本に書き込んでいきましょう。読んでおしまいという使い方はほしくないと思います。

☆ いつの時代の頃の話なのかよくわからないことがあります。内容を読み取れば理解できるのですが、マガタマ君が時代を教えてくれるようになっています。各ページの下にある帯年表とマガタマ君にも注目です。

☆ 野外へ出かけることは、いろいろな危険が付きものです。交通安全やマナーなど最低限のルールを守って、積極的に訪れてほしいと思います。

★ この絵本には、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんの協力がなしにわからなかったり、行けないところもあります。家族みんなで活用して、楽しい休日をつくりだしてほしいと思います。

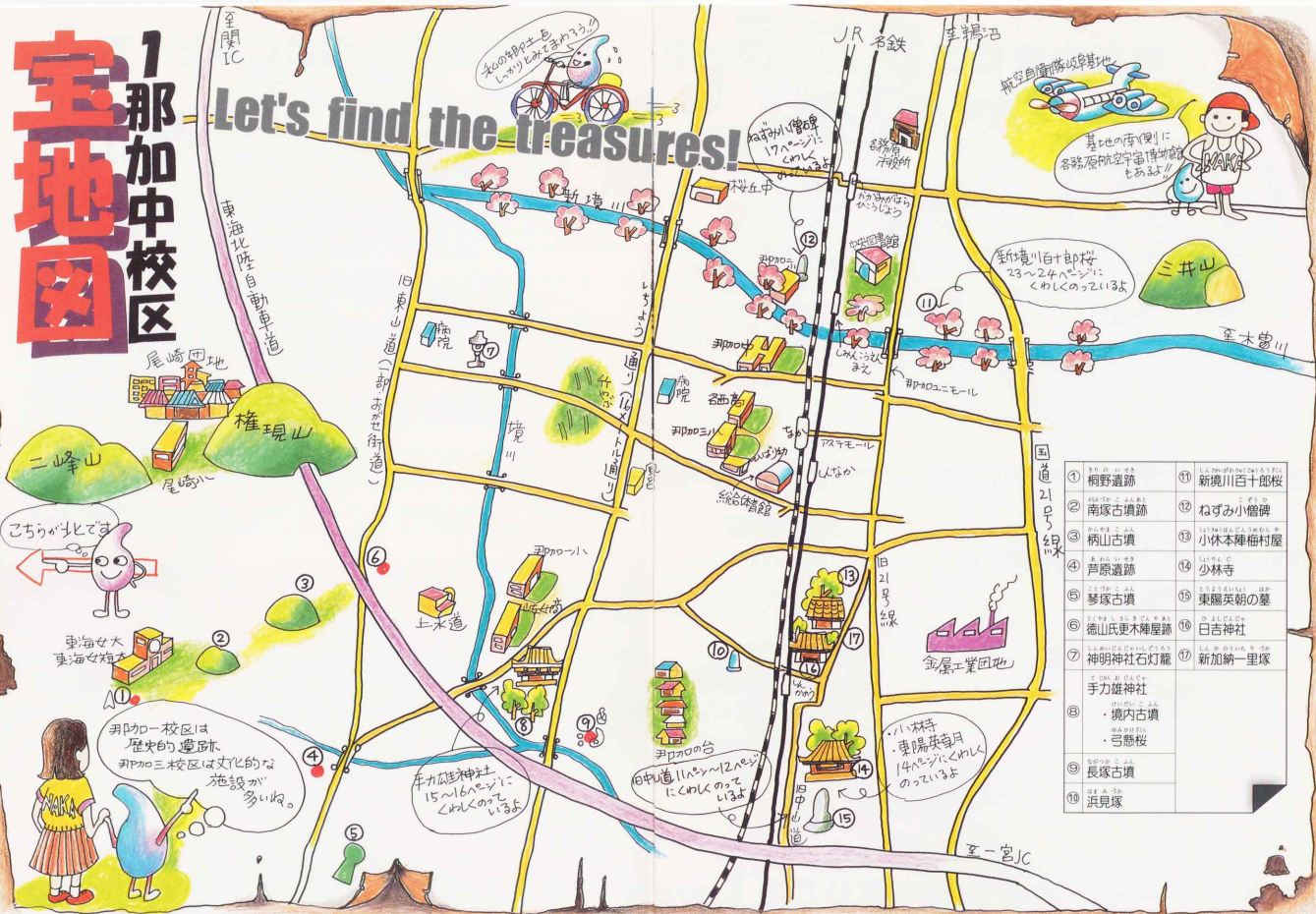
もくじ

はじめに……………P1	6. 今も思われる旅人の道 新加納 The street of Shin-kanō reminds us of the travellers in the old days. ……P11・12	12. 各務原の地にラ・マルセイユーズの歌声響く……………P19・20 An airplane comes to our town! "La Marseillaise" resounds around Kakamino.
この絵本を読むにあたって……………P2	7. 語り継がれる祭り 日吉神社と What is "Gaero Festival"? The toad is the symbol of good luck. ……P13	13. 語り継ごう！各務原市と太平洋戦争……………P21・22 There was a war in Kakamigahara. We should remember the hard days.
1. 那加中校区室地図……………P3・4 Let's find the treasures./	8. 少林寺を聞いた。東郷英毅 We are proud of Toyo Eicho, who founded Shorinji Temple. ……P14	14. 延べ3キロ、県内最長！新境川の百十郎並木……………P23・24 "No more floods!" Thanks to many people, we can live in peace now.
2. 那加中校章のまが玉……………P5・6 What is Magatama? The Symbol of Naka Junior High	9. あの織田信長がマイツタ手力 Oda Nobunaga worshipped in Naka Shrine. ……P15・16	15. 躍進！各務原市……………P25 What rapid progress! New Kakamigahara City
3. 那加には1500年前から人が住んでいた……………P5・6 People have lived in Naka for more than 1500 years.	10. 郷土の伝説 ねずみ小僧外伝 We can find his memorial in Naka. ……Another story of Nezumi-Kozo~	16. 躍進！各務原市……………P25 What rapid progress! New Kakamigahara City
4. さつま芋からにんじんへ……………P7・8 We love sweet potatoes and carrots.	11. 郷土の伝説 浜見悲恋物語 The tragic love of Hamami …Has he really changed his mind? ……P18	
5. さつま芋に助けられた引揚者Hさんの話……………P9・10 Sweet potatoes of Naka helped Mr. H's family.		

宝地図

1 那加中校区

Let's find the treasures!



- | | |
|------------|-----------|
| ① 桐野遺跡 | ⑪ 新井川百十郎桜 |
| ② 南塚古墳跡 | ⑫ ねずみ小僧碑 |
| ③ 柄山古墳 | ⑬ 小林本陣榎村屋 |
| ④ 芦原遺跡 | ⑭ 少林寺 |
| ⑤ 藤塚古墳 | ⑮ 東鑑英朝の墓 |
| ⑥ 徳山氏更木陣屋跡 | ⑯ 日吉神社 |
| ⑦ 神明神社石灯笼 | ⑰ 新加納一里塚 |
| ⑧ 手力姫神社 | |
| ⑨ 堀内古墳 | |
| ⑩ 長塚古墳 | |
| ⑱ 兵見塚 | |

2. 那加中校章のまが玉って？



那加は昔、佐良木郷^{さらかぎごう}ってしていました。それが、那加村、那加町と名前が変わっていったのです。那加町にあったいくつかの古墳を発掘したところ、その中からたくさん^{おおく}のまが玉や金環^{かねわん}（金のリング）が見つかりました。

《まが玉、金環とは？》

まが玉とは、「めのう」「ひすい」「こはく」などの石をきれいに磨いてC字形にとのえたものです。一つの端に穴があけてあり、縄文時代から古墳時代にかけ装飾品として用いられました。金環はその名の通り金のリングですが、いろいろな大きさがあり、「うでかざり」や「耳かざり」などとして用いられました。



このまが玉のデザインが、明治32年頃、那加尋常小学校の校章になり、その図案は那加町のシンボルになったのです。そして今から50年前の昭和22年4月、那加中学校ができた時、校章の図案を生徒から募集し、その中の優秀作品に先生たちが少し手を加えて、今の校章が完成したのです。

開校した時の那加中学校は、全校生徒499人、先生は14人でした。さらに、その年に卒業した3年生は、たったの15人しかいなかったのです。

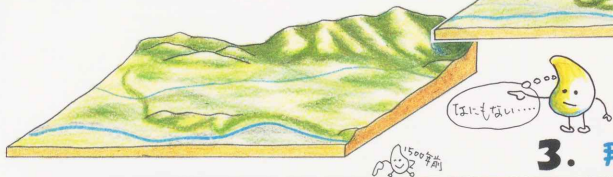
What is Magatama? — The Symbol of Naka Junior High

日本一古い石や権隈山の石が、南方の海の底で作られたという石の岡を流れ、特別天然記念物オオサンショウウオなどの生き物を育てる木曽川。この木曽川が、私たちの各務原台地を作りました。

約1万五千年前

木曽川は、犬山橋あたりで山の間から急に平野を流れることとなります。木曽川の流れるは、急に速くなり土や石を堆積させます。こうして、大きな扇状地ができました。

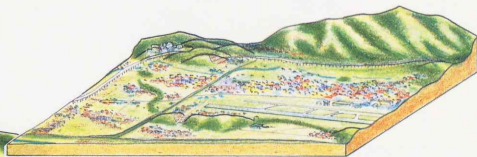
次に、洪水などが所々土地を削りました。やがて、今の各務原台地ができました。



約千五百年前

川があること、台地で住むのことで、那加には古くから人がたくさん住んでいました。有力な古墳があります。その昔、ここに大きな勢力を持った豪族うか。

に安全な土地のあることなどさん住んでいました。有力な古墳があります。その昔、ここに大きな勢力を持った豪族うか。



岐阜県の東西・南北交通の要所である那加には、大きな道路や鉄道ができました。昔から竹林が多くありましたが、それも切り開かれ多くの人が住むようになりました。

ここ那加には、家を建てるのに適した平らな土地と豊かな地下水があります。これらも、すべて、木曽川の恵みを受けていることを忘れないものです。

3. 那加には1500年も前から人が住んでいた

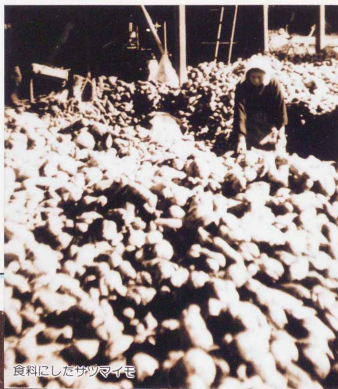
4. さつまいもからにんじんへ *We love sweet potatoes and carrots.*

わたしたちの生活する各務原台地は、江戸時代まで「ただ青草のみが生える」といわれる原野が広がっていました。この原野を作物のとれる畑にしようと開墾されはじめたのは、明治から大正時代になってからです。開墾された各務原は黒ボクと呼ばれる黒土となり、酸性が強く、また台地であったために水がすぐに引いていて、サツマイモは味がよく、各務原甘藷の名声を得て、遠く大阪地方でも売られる人気の作物となりました。

た。この原野を作物のとれる畑にしようと開墾されはじめたのは、明治から大正時代になってからです。開墾された各務原は黒ボクと呼ばれる黒土となり、酸性が強く、また台地であったために水がすぐに引いていて、サツマイモは味がよく、各務原甘藷の名声を得て、遠く大阪地方でも売られる人気の作物となりました。

太平洋戦争が始まると、農家の人々は少しでも食料を多く生産しようと努力しました。河原や荒地ばかりか小学校の校庭も畑に変わり、サツマイモやジャガ芋が作られました。

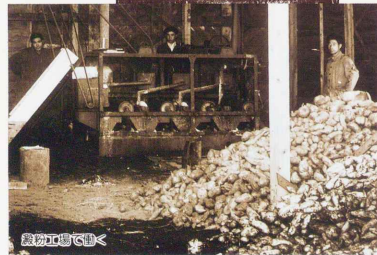
そのため、戦争中は運動場が使えず、楽しみにしていた運動会もできませんでした。



食料にしたサツマイモ



サツマイモのおかげで、各務原の人々は戦争中も飢えをしることができました。また、戦後の復興のなかで仕事の見つからなかった人々はサツマイモづくりなどの畑仕事に汗を流して生活しました。イモからデンプンをつくる工場もでき、鼻をつく強烈な匂いで周囲の人々から苦情を受けましたが、多くの人に仕事も与えてくれたサツマイモです。



製粉工場の中



各務原ニンジン畑の収穫の様子

戦争が終り食生活が豊かになると野菜を食べる人が多くなりました。各務原は、国からニンジン産地としての指定を受け、従来から作られていた砂地だけでなく、サツマイモ畑もニンジン畑に変わっていかしました。



おいしいよ、ニンジンジュース

昭和37年から栽培が始まった西洋種の「短根ニンジン」の導入により、各務原のニンジン栽培はますますさかんとなり、岐阜県下最大の産地となりました。昭和63年の未来博では、各務原市の特産物としてニンジンジュースが販売され、大人気となりました。

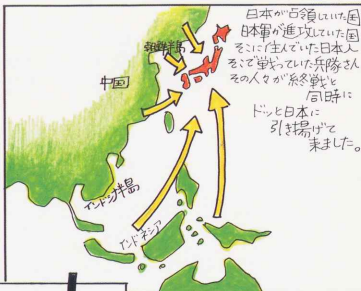
各務原のニンジンは、サツマイモにかわる特産物として、これからも多くの人に愛されていくことでしょう。



5. さつまいもに助けられた引揚者川さんの話 *Sweet Potatoes of Naka helped Mr. Kawa's family.*

日本が太平洋戦争に敗れたことから外地に住んでいた日本人が続々と日本に引き揚げて来ました。当時、日本が植民地にしてた国（朝鮮・満州・インドシナの国々）には約660万人の日本人が住んでいました。

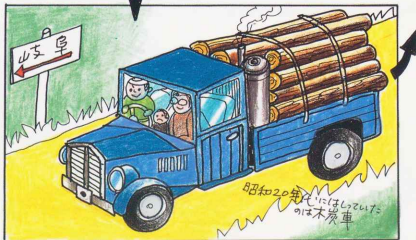
1945年の終戦と同時に、それだけ多くの人々が荒れ果てた日本にドッと引き揚げて来たのですから、その混乱ぶりは大変なものでした。



私の一家も終戦の年の9月に京城（現在のソウル）から引き揚げて来ました。父親は仕事が軍部に関係していたことから一緒に帰国出来ます。父親が帰ってきたのは2年後の1947年でした。この2年間の母と8人の子どもの生活の苦しさは何物にも例えようがありませんでした。

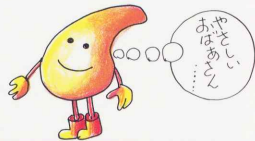
飛騨の小さな町に引き揚げた一家は、毎日9人の食物を確保することに明け暮れました。それぞれの子どもは野山に食べれる草を取り行ったり、近所の農家の仕事を手伝って野菜を買ったりしました。

母親は和裁の内職の注文がないとき、いつも末っ子の5歳の私を連れて、岐阜に材木を運ぶトラックに乗せてもらい、各務原にさつまいもを買い出しに行きました。買い出しと言ってもお金なんか有る筈がありませんから各務原の農家を訪ねてさつまいもをいただくのです。そして、材木を降ろして岐阜から戻ってくるトラックに乗って飛騨に帰るのです。



母親に手を引かれながら各務原台地の畑道をあちろちろ歩き回った微かな思い出の中で、一つだけハッキリと覚えていることがあります。

あるとき、農家のおばさんが、「はい、これはボクへのおまけよ」と言ってくれて、私の背中の小さなリュックサックに入れてくれたのです。そのおばさんの優しい笑顔と大きなさつまいもの重さは今でも忘れることが出来ないのです。

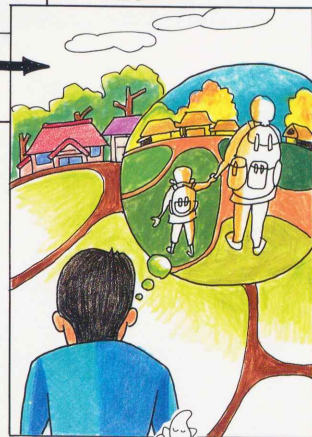


2年後に父親も引き揚げて来て、やっと生活も落ち着いてきました。

それから20年後、私も大学を出て教師になりました。縁とはなんと不思議なものでしょうか、私は三つ目の転勤で各務原市の学校に勤務することになり、やがて各務原市の住民になりました。

微かな思い出をたどると、あのとき母と歩いた場所が、いま私の一家が住んでいる所から近い野畑地区か前野地区あたりの地形に似ているような気がしてなりません。

母は87歳で逝きましたが、「私の一家は各務原市の人に助けられたの」と口癖のように言っていました。



6. 今も思われる旅人の道

新加納^{たては}五^{かん}場^{やど}(建場茶屋)～中山道の「間」の宿～

現在、各務原市内を東西に縦断する最も主要な道路は、国道21号線です。この道路は、江戸時代には中山道と呼ばれ、東海道、甲州街道、日光街道、奥州街道とならぶ主要五街道の一つでした。そのため、大行列や人々の往来に大切な役割をたしました。



The street of Shin-Kano reminds us of the travellers in the old days.

新加納村は、中山道駅中の鵜沼宿と加納宿の中間にあり、各務原台地の西のはずれに位置する交通の要所でした。また、この二つの宿駅間は中山道中二番目に長い距離がありました。そこで新加納村には、大行列や旅人の休憩にあたるための小休所がつけられました。村人たちは、農業のかわら商業や旅館業を営み、たくさんの旅人たちに喜ばれました。新加納にあった梅村屋は小休本陣(身分の高い人のための休憩所)としての役割を果たしていました。江戸時代の終り頃、天皇の娘で当時15歳であった皇女和宮が将軍徳川家茂の娘となるために中山道を通ったときに、この梅村屋で休憩されました。

各務原市の東に位置する鵜沼宿は、江戸時代のはじめは木曾川沿いでしたが慶安4年(1651)に現在の東町・西町に移りました。大名の泊まった本陣(桜井家)をはじめ、脇本陣(坂井家)が一つ・旅籠とよばれる宿屋が二十五軒と数多くありました。脇本陣の跡には、松尾芭蕉が立ち寄った時に残した「ふくじ汗も喰へば喰わせよ菊の酒」の句碑があり、現在も当時の面影をよく残しています。鵜沼宿には大名たちの荷物を運ぶという役割もあり、馬や人夫が街道筋を行き来し大変なにぎわいでした。



7. 語り継がれる祭り 日吉神社と「かえろ祭り」

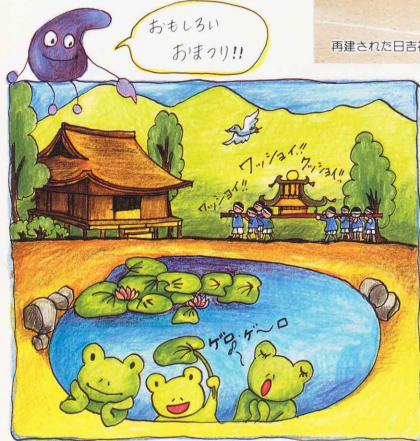
中山道沿いの日吉神社は、滋賀県大津市にある日吉神社の分祀神として平安時代ごろにたてられたもので、新加納の守り神として地域の人々に愛されてきました。

昭和34年、この地方を襲った伊勢湾台風で日吉神社も大きな被害を受け、境内にあったヒノキや杉の太木が全部倒れてしまうと共に、社も壊れてしまいました。現在の建物は昭和36年に地域の努力で再建され、その時に樹木も植えられました。

WHAT IS "GAERO FESTIVAL"?
THE TOAD IS THE SYMBOL OF GOOD LUCK.



再建された日吉神社



現在は4月1日の春祭りに近くの倉庫から「子供みこし」が出され、子供たちが元気な掛け声を響かせています。

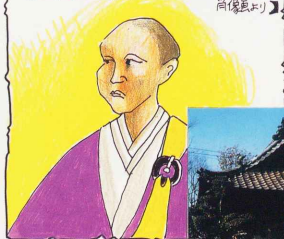
日吉神社には、昭和47年まで「ひょうたん池」という池がありました。ここにたくさんのヒキガエルが生息し、グワックワツと大きな声で鳴っていました。カエルは、「家に帰る」「戦地から無事に帰る」といった意味で、縁起の良いものとして大切にされていました。毎年、4月1日には「かえろ祭」という祭りが行われ、カエルに感謝の気持ちを示しました。この祭には、出店が参道の両側いっぱいにならび大変な賑わいでした。境内の社からは厄年になった男たちが、威勢の良いかけ声と共に餅まきをしました。今も、境内に立つとその時の歌声が聞こえてくるようです。

8. 少林寺を開いた 東陽英朝



新加納にある少林寺という寺を知っていますか。この寺は1499年に東陽英朝という有名な高僧が開いた寺です。

東陽英朝 【現存の掛け軸に描かれている高僧像より】



東陽英朝は、岐阜県加茂郡八百津町に生まれました。小さい頃から、近所でも評判のかしこい子でした。大きくなると京都にある寺で修業をかされた後に、石庭で有名な龍安寺のお坊さんのもとで仏教の悟りを開きました。

京都大徳寺の長などを努めた後、岐阜県美濃地方に帰り岐阜市、八百津町、加茂郡上麻生、瑞浪市、山県郡伊自良などで多くの寺を開く仕事をしました。

東陽英朝は、各務原にも仏教を広めたいと考え、新加納に少林寺を開いたのです。厳しい修業しながら仏の教えを学ぶ彼の教えは、各務原だけでなく岐阜県の多くの人々に信仰されています。



少林寺相祠堂



東陽英朝は晩年の美濃地方での活躍を終え、1504年に自分が最も愛した各務原の少林寺で亡くなりました。彼の書いた書物や最後の教えなどは、現在も少林寺に残されています。

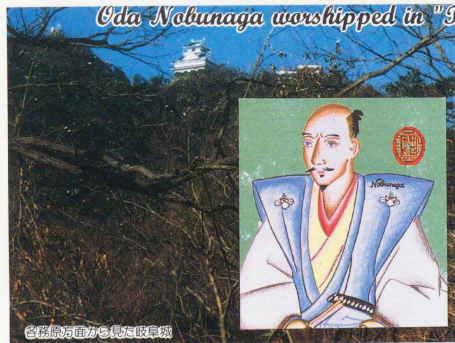
We are proud of Toyo Eicho,
who founded Shorinji Temple.



少林寺

東陽英朝墓

9. あの織田信長がマイッ! 手力雄神社!



Oda Nobunaga worshipped in "Tejikarao Shrine".

尾張（今の愛知県）に生まれた織田信長は、今川義元を桶狭間の戦いで破った後、天下統一をめざしました。信長は手始めに、各務原市のある美濃地区に攻め込んで来ました。ねらうは斎藤氏の住む稲葉山城（岐阜県）でした。信長は、敵を攻めるときに神社仏閣・民家を焼き払うという方法をとりました。これは、向かってくる敵は徹底的にやっつけることを相手方に示すというねらいがありました。

各務原市から見た岐阜城



稲葉山城を攻め落とすために各務原に攻め入った信長は、那加にある少林寺・法円寺などを焼き払い、手力雄神社に迫りました。朝もやのなか、兵士たちが神社に火をつけようとした時でした。不思議なことに、突然一陣の風が沸き上がるように吹き荒れ、霧が立ちこめました。信長は、目がくらみ息が苦しくなり、手足の自由を失い馬から落ちたのです。



「神様のたたりじゃすくにわびるのだ」と叫んだ信長は、手力雄神社に参拝し自分の罪をわびました。すると霧はたちまちのうちに晴れ、信長ももとのように元気になりました。これ以後、信長は厚く手力雄神社を敬うようになりました。

稲葉山城を攻め落とした信長はしばしば手力雄神社に立ち寄り、武運長久を願いました。ある日のこと、銃先を神社に向け、「ここに神あらば答えよ」と叫びながら銃を一発放ったところ、弾は確かに堂に入り手応えがありました。信長は、一層手厚く手力雄神社を敬い、神社から見える全ての田畑を領地として寄付しました。



信長の弓懸桜



現在、神社の境内に信長弓懸桜とよばれる桜の木があります。これは、信長が稲葉山城の斎藤氏を滅ぼした後、神社に参拝し武運長久を祈ったときのものです。信長は、この時境内に一つの場をつくって弓術を試み、弓をこの桜に懸けておいたので弓懸桜と称するようになったということです。その頃の木が枯れたので、今の木は二代目だそうです。



江^え市^し市中^{ちゆう}を荒^あらし回^{まわ}ったねずみ小僧^{こぞう}という大^おどろほう^{ほう}をみなさんは知^しっていますか。

盗^{ぬす}んだお金を貧^{ひん}しい家庭^{けいたい}や身寄^{みよ}りのない老人^{らいにん}らに分^わけ与^よっていたとして今日^{けふ}でも義賊^{ぎぞく}として親^おしまれています。

次郎^{じらう}吉^{きち}が江戸^{えど}に向^{むか}う途中^{ちゆうちゆう}のこと、秋^{あき}はつるべ落^おとしというように、あたりはすっかり暗^くくなってしまいました。困^{こま}り果^はてた次郎吉^{じらうきち}でしたが、ようやく新^{あたら}加納^か原^{はら}の近^{ちか}くに「いろはや」という小^こさな茶店^{ちやてん}を見^みつけわらじを脱^だぎました。前後^{ぜんご}して、見^み知らぬ老母^{らうぼ}と娘^{むすめ}が宿^{しゆく}をとりました。野宿^{のしゆく}せずにはすんだことを喜^{よろこ}び合^あうのが当時^{たうじ}の旅人^{りょにん}の共通^{きゆうこう}した思^{おも}いです。

長旅^{ながりょ}の疲^{つか}れもあつて、たちまち眠^ねりに落^おちる旅人^{りょにん}たちです。夜^よも更^{さら}け、ふと目^めをさました次郎吉^{じらうきち}の耳^{みみ}に女^めの悲鳴^{ひなう}が聞^きこえます。何事^{なにこと}かと思^{おも}った次郎吉^{じらうきち}が駆け付^{かけつ}けると先程^{さきほど}の老母^{らうぼ}と娘^{むすめ}が茶店^{ちやてん}の主人^{しゆじん}夫婦^{ふうふ}に縛^ばられ、金品^{かねぶつ}を奪^{うば}われようとしてはいりません。

後の義賊^{ぎぞく}となるほどの次郎吉^{じらうきち}です、これを放^{はな}つておくことはできません。宿^{しゆく}の夫婦^{ふうふ}を逆^{さか}に縛^ばり上げ、助け出してやりました。夫婦^{ふうふ}を調べると、何^{なに}とこの二人^{ふたり}は盗賊^{たうぞく}で、金目^{かねめ}のものを持^もつた旅人^{りょにん}を泊^とめ、奪^{うば}い取る悪行^{あくぎやう}を続^{つづ}けていたのです。命^{いのち}を奪^{うば}われた旅人^{りょにん}も多く、裏^{うら}の井戸^{いど}には死体^{したい}が投げ込まれていたと言^いいます。

この鬼^{おに}のような夫婦^{ふうふ}をこらしめた次郎吉^{じらうきち}を記念^{きねん}して碑^{いし}が建てられました。いまではいつのまにか『ねずみ小僧^{こぞう}の墓^{はか}』として、伝^{つた}えられています。名鉄^{なてつ}市民公園^{しみんこうえん}駅の北^{きた}側にひっそりと建てられていますので、みなさん一度訪^{たず}ねてみてはいかがですか。

10 郷土の伝説

ねずみ小僧外伝

11 郷土の伝説

浜見悲恋物語

今は河口はずっと南^{みなみ}に行^いかなければありませんが、昔^{むかし}は各務原^{さかむら}の近^{ちか}くまで河口^{がわ}が広が^{ひろ}がっていたそうです。今も新^{あたら}加納^かには浜見塚^{はまみづか}という場所^{ばしょ}がありますが、浜^{はま}が見^みえる小高^{こたか}い丘^{かみ}という意味^{いみ}で付けられたそうです。

当時^{たうじ}、東^{あづま}は大^{おほ}山^{やま}から西^{にし}は不^ふ破^はの赤坂^{あかざか}の辺^{へり}りまで広^{ひろ}く河口^{がわ}が広がり、渡し船^{わたしふね}で多くの人^たが行^いき来^きしていました。

これにまつわる悲^{かな}しい恋^{こひ}の伝説^{でんせつ}が浜見町^{はまみち}には残^{のこ}されています。

その頃^{そのころ}、河口^{がわ}を挟^{くわ}んで東^{あづま}と西^{にし}に若い男女^{おとこめ}が住^すんでいました。この二人^{ふたり}が出^い会^あったのがこの那加^{なか}に近い浜見^{はまみ}でした。何^{なん}度^{たび}か出^い会^あいを重ね^{かさね}ていううちに、二人^{ふたり}には愛^{あい}が芽^め生^なえ、互^{たが}いに訪^{たず}ねあつて嬉^{うれ}しい契^{せき}り縁^{ゆかり}を結^{むす}んでいました。しかし、身^み分の差^さもあつて昼間^{ひるま}會^あうことができない二人^{ふたり}は、人目^{ひとめ}を忍^{しの}んで夜^よの闇^くにまぎれ、舟^{ふね}で行^いき来^きしていました。

目印^{めじるし}はそれぞれ岸^{かた}辺^へに建^たつ川灯台^{かがたい}の明^ありです。

ある晩^{あるばん}、舟^{ふね}を出^いした娘^{むすめ}には、漕^こげども漕^こげども相手^{あいて}の男^{おとこ}が灯^あすはずの川灯台^{かがたい}が見^みえませんが、二人^{ふたり}の仲^{なつ}を割^わこうとした娘^{むすめ}の父^{ちち}親^{おや}が人^{ひと}を頼^{たの}んで消^けさせてしまったのです。

「これで娘^{むすめ}もあきらめるだろう。しょせん身^み分の違^{ちが}う者^{もの}同士^{どうし}、幸^{さい}せにならうはずもない」

そうとは知らない娘^{むすめ}は、男^{おとこ}の心^{こころ}が变^かわつてしまったと勘^{かん}違^{ちが}いしてしまいました。そして思^{おも}い余^あつて舟^{ふね}から身^みを投^なげってしまったのです。翌朝^{あしたあさ}、流^{なが}れつた舟^{ふね}には娘^{むすめ}の姿^{すがた}はありませんでした。

愛^{あい}する恋人^{こひびと}の死^しを知らない若い男^{おとこ}は、いつまでもいつまでもかたの岸^{かた}を見^みつめ、恋人^{こひびと}を待^{まち}ち続けていたといいます。

一方^{一方}、最愛^{さいあい}の娘^{むすめ}を亡^なくした父^{ちち}親^{おや}は自^じ分の行^いいを深^こく悔^くやむのでした。

The tragic love of Hamami
"Has he really changed his mind?"



浜見町からのその風景平野



12. 各務野の地に「ラ・マルセイーズ」の歌声響く

An airplane comes to our town! "La Marseillaise" resounded around Kakamino.

現在この各務原には航空自衛隊岐阜基地があり、那加中の上空をF4 F15 T4などという超音速ジェット機が飛びます。

毎年行われる航空祭は大変立で、ブルーインパルスの華麗な演技に目を奪われます。

全国からも多くの見学者が集まり、大変にぎわうことはみなさん知っていますね。

では、この各務原に飛行機ができたのはいつのことでしょうか。

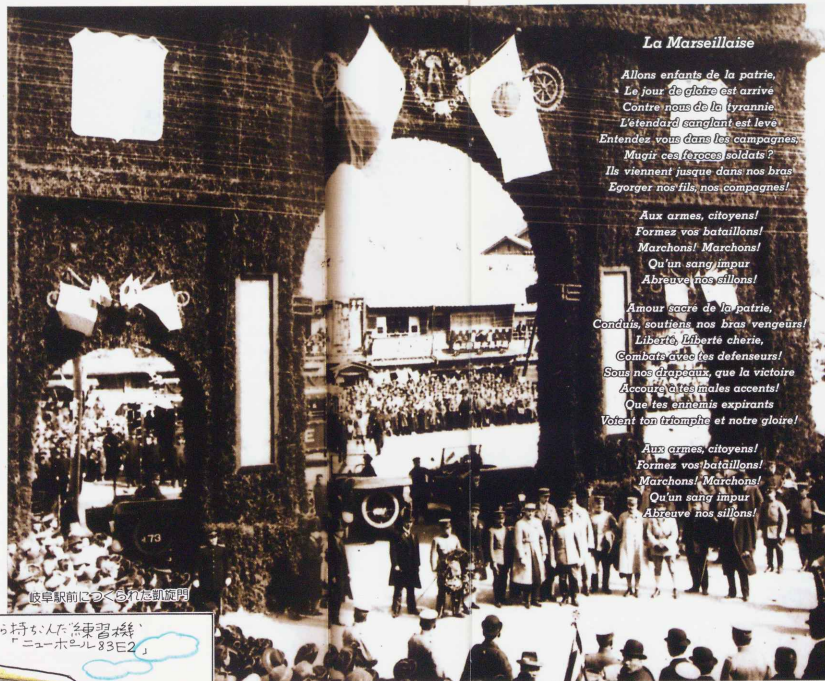
この各務原市に飛行機がやってきたのはおよそ80年前大正6年のことでした。フランス人のモーリス・ファルマン氏ら一行3機が各務原飛行場に到着しました。「飛行機がやってくる。」このニュースは、当時の人々に大きな驚きを持って迎えられ、岐阜駅前には手製の凱旋門を作り歓迎するという熱狂ぶりでした。

「愛知県などの他県にさきがけ岐阜県に、それも我が那加村に飛行場ができるのだ。」

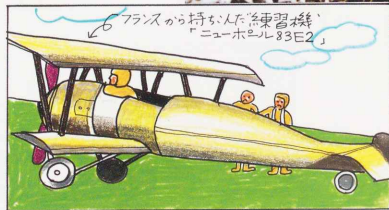
人々は歓喜の気持ちで表そうかを考え、モーリス・ファルマン氏の母国であるフランス国歌を歌うことを決めました。

外国の国歌が歌われるなどいうことは初めてのことです。

ただ嬉しいながらも、各務野の空に、ラ・マルセイーズが響きました。



岐阜駅前につくられた凱旋門



La Marseillaise

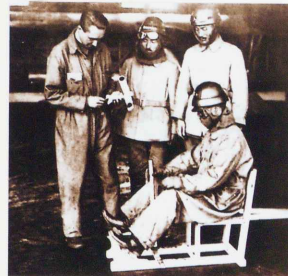
*Allons enfants de la patrie,
Le jour de gloire est arrivé
Contre nous de la tyrannie
L'étendard sanglant est levé
Entendez-vous dans les campagnes
Mugir ces braves soldats?
Ils viennent jusque dans nos bras
Egorger nos fils, nos compagnons!*

*Aux armes, citoyens!
Formez vos bataillons!
Marchons! Marchons!
Qu'un sang impur
Abreuve nos sillons!
Amour sacré de la patrie,
Conduis, soutiens nos bras vengeurs!
Liberté, Liberté chérie,
Combats avec tes défenseurs!
Sans nos étendards, que la victoire
Accours à tes mâles accents!
Que tes ennemis expirants
Voient ton triomphe et notre gloire!*

*Aux armes, citoyens!
Formez vos bataillons!
Marchons! Marchons!
Qu'un sang impur
Abreuve nos sillons!*

当時の日本には飛行機を製作する技術も操縦士を養成する学校がありません。フランスの協力はとてもありがたいものでした。

木で作った模型の操縦席でフランス人のパイロットから飛行の操縦技術を学んだりもしました。



その後も各務原飛行場は発展し続けました。しかし、太平洋戦争という悲しい出来事はこの各務原市にも大きな被害を与えました。

特に飛行機工場があった川崎工場は何度も大きな爆撃にあいました。徹底的に破壊され尽くされた飛行場を見て、誰もが「これで飛行場も終りか」と思ったことでしょう。



現在は、航空実験団が置かれ、短距離離陸実験機(Sトル機)「飛鳥」など、先進技術の開発にも力を入れている各務原基地です。

これからも、各務原基地が平和の中で、人類の航空技術の発展にさらに寄与していくことを願ってやみません。

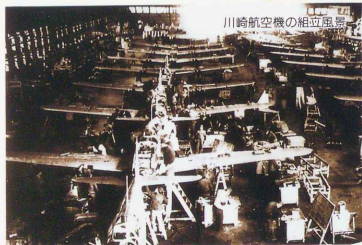
13. 語り継ごう！各務原市と太平洋戦争

There was a war in Kakamigahara. We should remember the hard days.

昭和時代に入ってから日本は戦争の連続といってもいいほどでした。国民は、昭和6年(1931)から始まった満州事変に続き日中戦争、そして昭和16年(1941)の真珠湾攻撃がきっかけとなった太平洋戦争というように次々に戦いに巻き込まれていきました。こうした戦争は、昭和20年(1945)8月の敗戦まで15年間も続けました。各務原からも多くの人々が戦地へと出征していきました。

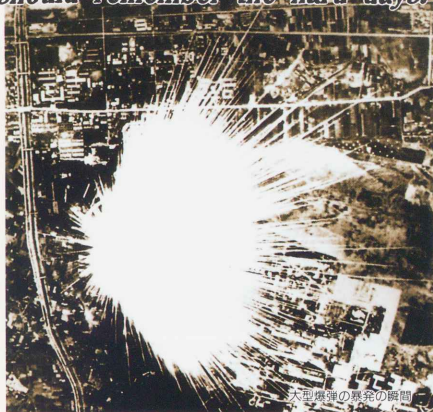


この時代は、小学生は家庭でイモやかぼちゃづくり、中学生や高校生の年齢になると軍需工場へ動員され、兵隊さんの使う武器や物資をつくりました。17歳位になると軍隊に入り、戦地へ行く人もいました。那加の町では、戦争でなくなられた方のために、町をあげての葬式が行なわれました。食べ物や衣料品も不足しお腹を空かせたまま、毎日我慢して生活していました。服はといえば、今では着ることのない、つぎはぎだけのボロがほとんどでした。



太平洋戦争が激しくなり、各務原にも空襲が行なわれるようになりました。各務原は、陸軍飛行場・川崎工場など軍事関係の施設が多かったため、何回も空襲の目標となりました。

学校では、授業中に空襲に対する避難訓練が行なわれました。この訓練は両方の耳を親指でふさぎ、他の4本の指で目をおおい机の下にしゃがみ込むものであったり、いっせいに校庭に飛び出て木の陰に隠れるといった、今思えば全く役に立たないものでした。



昭和20年6月22日のことです。B29大型爆撃機70機が3回に分かれて各務原上空にやってきました。空は、まるで黒い雲におおわれたようでした。まず、那加駅周辺が爆撃を受け新加崎・西野町・楽天地・本町・日の出町などに1トンもある大型爆弾が次々に落とされ火の海となりました。この5つの町だけでも28人の方が亡くなりました。JR那加駅近くの桜の木には、その時の爆弾の破片がささっていました。川崎工場にも数個の爆弾が落ち、本館や工場が壊されました。本館東側に落ちた爆弾では、三階から一階まで貫通しさらに幅2メートル深さ5メートル程の穴が掘れたほどでした。



爆弾の直撃を受けた川崎航空機本館



昭和20年6月22日、7月12日の空襲による那加町内の被害は、全焼3戸、全壊371戸、半壊96戸・破損263戸・死者49名という驚くべき数となりました。



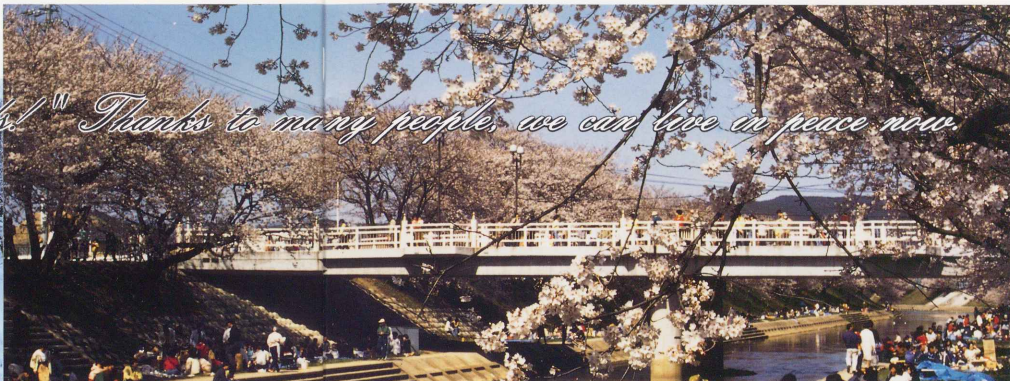
14. 延々ろキロ、県内最長！新境川の百十郎並木

新境川の雪景色
と美しい♪

春爛漫の
新境川堤防
だよ



"No more floods!" Thanks to many people, we can live in peace now.



私たちの町を流れる新境川には、約3 kmにわたり桜並木が続いています。毎年春には、川面をピンク色に染め、見る人の心まで温かくする美しい花を咲かせています。桜並木は、人々の願いと市川百十郎さんの善意によってできたのです。

明治29年。

7月19日から降り出した豪雨は、まる二日間降り続きました。

その大雨で、堤防決壊106カ所、流された橋が72カ所を始め、浸水した土地や家も数多くありました。

ところが、追い打ちをかけるかのように、大災害からやっと復旧しかけた8月30日に、暴風雨（今で言う台風でしょうか）、9月には雨が長い間続き、もっとたくさんの被害を受けました。

その後も、2〜3年ごとに水害に見舞われ、住んでいた人々は困りはてていました。

「境川さえ、もっと水はけがよくなればいいのに…」人々は、そう思いつつ境川を見るのでした。

大洪水から20年後にやっと、今の那加中学校の隣に木曾川までつながるまっすぐの新しい川を作ることになりました。

でも「深さ9m、長さ5km」の川を作るのです。当時では、機械もありません。シャベルやもっこを使っていくという大変な工事でした。

こうした工事でも多くの人力と多額な費用をかけて、昭和5年にやっと完成しました。



「これで洪水がなくなる」
住んでいた人々は、真新しい川を見て大変喜び、盛大な完成式や花火大会を開いたのでした。
これを聞きつけた、地元出身の歌舞伎役者「市川百十郎」さんも、

「みなさんの願いが、やっとかなえられた…」
といたく喜びました。そこで、完成したままの土の堤防に、桜の苗木千本を送り、各務野の人々と一緒に植えました。
昭和03年、市川百十郎さんに感謝し堤防の桜並木を『百十郎桜』

と呼ぶようになりました。

その後、「財団法人：日本さくらの会」により、

「日本のさくら名所百選」

にも選ばれました。

毎年、桜の季節になるとこの百十郎桜を見物にくる人々が50万人もいます。堤防では、気のあった仲間どうしがくま座になって食事をしたり、夜桜見物をするなど、思い思いの楽しみ方をしている人々を見かけます。

各務原市でも、4月には盛大な桜祭りを開催しています。今後も私たちの桜として、大切にしていきたいと思えます。



15. 躍進！各務原市



21世紀に向けて申べる各務原市
各務原市の意気を感じて
ご紹介するね。



航空宇宙技術の先駆けとして！
《各務原航空宇宙博物館》

各務原は飛行機の街として発展をしてきました。ここで初飛行を行った飛行機は数多く、いわば日本の航空宇宙技術の先駆けなのです。各務原航空宇宙博物館は、「日本の航空宇宙の関係者が、どんなことにチャレンジし、何を残してきたのか。」を楽しみながら学べるようになっていきます。中には70年以上前に各務原ではじめて作られた複製機から、最新のロケットまでが展示してあります。ここは新しい航空宇宙文化の発信基地なのです。

What rapid progress!

先進科学都市各務原のシンボル
《VRテクノセンター》

VRテクノセンターは、各務原市須賀町に完成し、バーチャルリアリティー（仮想現実）技術によって、メカトロニクス、アパレル、航空宇宙などの産業を活発にすることをねらいとしています。その中には開発研究室、展示ホールなどがあり、また、地震の体験ができる設備も整っています。まさに先進科学都市として伸びていく各務原市のシンボルです。



New Habamagahara City

地球に返そう、きれいな水を
《各務原浄化センター》

各務原浄化センターは、「日本一住みよいふもとさ岐阜県づくり」をめざして、全県域下水道化構想によって作られました。

ここでは、各務原市をはじめ、岐阜市の一部、岐阜市、柳津町、笠松町、川島町、坂祝町、美濃加茂市、可児市、兼山町、川辺町、八百津町、御嵩町の4市9町の下水道を一手に引き受けています。また、施設の中には、野球場、サッカー場を始め、デイキャンプ場や野外ステージなどもあり、市民の憩いの場となっています。



絵本ができて

各務原市では、昨年度より各中学校区ごとに「教育トライアングル事業」に取り組んでおります。那加中学校区（ひばり幼稚園・那加一小・那加三小・那加中）は、今年度からスタートしております。

この事業は、学校と家庭と地域と一緒に子供の好ましい生活づくりのためのアクションを起こすことで、より具体的に効果的な連携のあり方を探る端緒を見つけようとするものです。この絵本「なかなかの話」もその一つです。

この地を引き継いでいく子供たちが、ふるさとへの愛着と誇り、地域への課題意識、あるいは地域の将来への希望や期待等々、自分たちが住む地域への熱い思いを抱きながら生活してほしいと、私たちは常々願っております。そうした意味でこの絵本は、ふるさと那加地区を中心としたさまざまな側面に視点をあて、まず子供たちに「行ってみよう」「確かめてみよう」「調べてみよう」というアクションを促すことを目的に編集しました。

編集にあたっては、地域の方々、生徒の皆さん、大学生の皆さん、各教師の多くの方々から、積極的にご協力ご支援頂き、多くの文献を参考にさせて頂きました。

絵本の出来栄えに不備を感じないわけではありませんが、なかなかの絵本に仕上がったことを喜んでおります。ここに謹んで感謝し、お礼を申し上げます。

今後は、これを機に学校、家庭、地域の連携づくりに一層努力していきたいと思っております。

また、この一年間、多忙な日々でありながら、各教師が自分の専門分野を生かし絵本「なかなかの話」づくりに尽力できたことに、充実感を味わい、喜びを感じ得たことを大変嬉しく思いました。

1999.1.22/「なかなかの話」編集委員一同

《参考文献》

※「各務原市民の戦時写真」写真集 思い出のアルバム 各務原 他、多数の文献と地域の多くの方々のご協力を得ました。

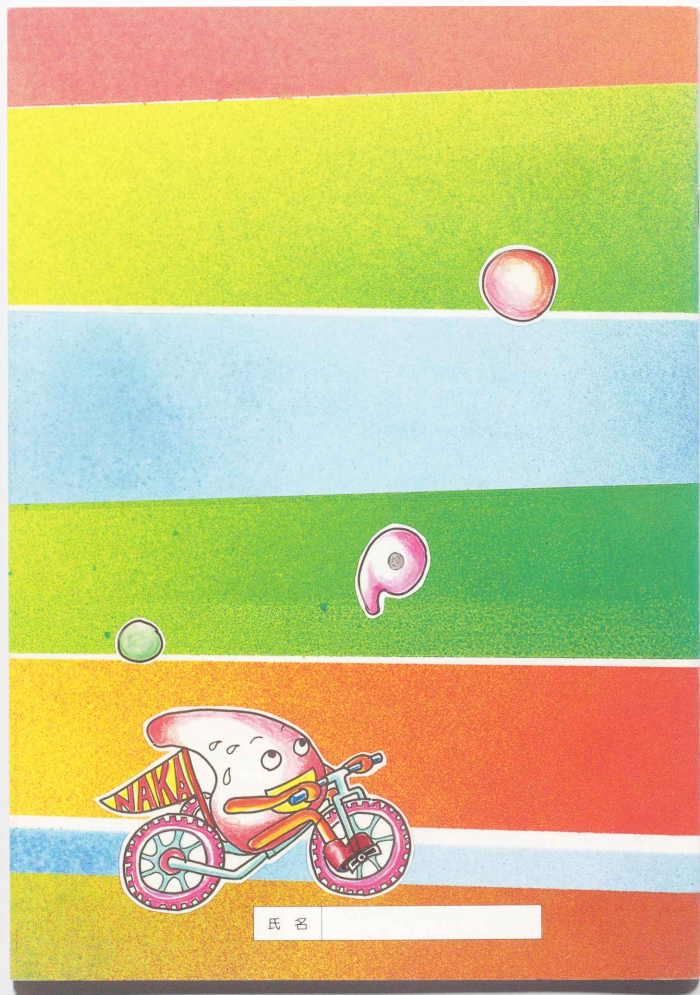
編集委員（50音順）

荒木 成美	池田 友美	奥村 圭吾	加藤 勝祥	川本 晴	小島裕二郎
坪内 弘通	寺井 厚人	中島 正行	長谷川 清	藤田 一雄	堀部 照行
前田 常夫	山田 悦子				

▶事務局：那加中学校（各務原市那加重町48番地） ☎ 0583-89-2281

▶印刷：昭和ぷりんと（岐阜市岩崎1-12-3） ☎ 056-294-8781





氏名